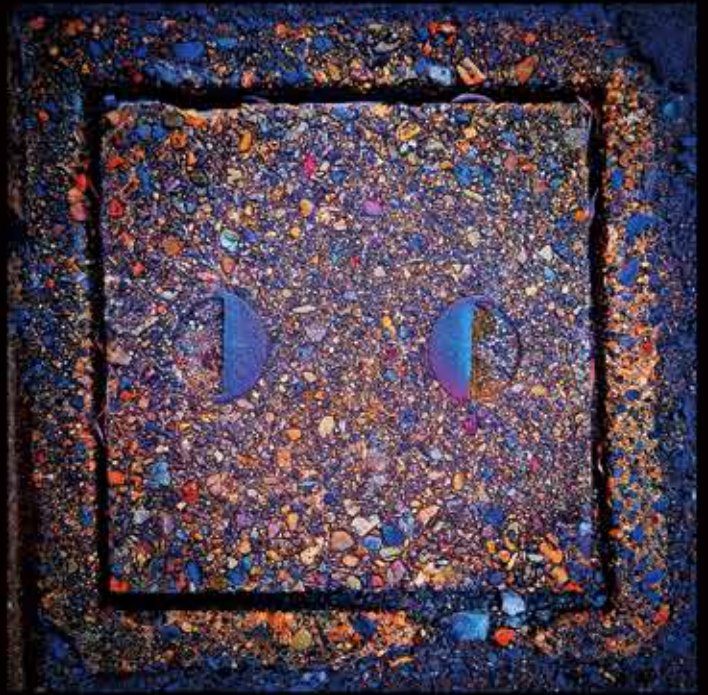


建築人

2026
8

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin" No.746





このページの新企画「建築人x写真人」の掲載希望建築物を募集しています。
 本企画は会員が手がけた建築作品を、写真家MOAIによる独自の視点と表現で、
 どのように“料理”されるかを楽しんでいただく企画です。
 写真家MOAIの作風は、ハイコントラストや強めの色彩によって日常を非日常へと変換します。
 建築が竣工写真などとは大きく印象が異なる“新しい姿”に生まれ変わることを
 楽しんで頂ける方を歓迎いたします。
 皆さまが関わられた建築が、写真家の視点で新たな物語を紡いでいきます。
 会員の皆さまの応募をお待ちしています。

お知らせ

「MOAIの写真展」開催中です。

こちらで連載させていただいております作品の新作です。

7/1 (水)～8/31 (月)

Ryo's Coffee 大阪市平野区背戸口2丁目9-26 御菓子司たちばなや1F

営業時間 7:30～18:00 定休日 火曜日

大阪メトロ谷町線平野駅7番出口徒歩約10分 駐車場 12台分

「MOAIの独言」

日々心に引っかかった光景やモノをスマホで撮影、加工した作品
 私が惹かれるのは
 蓄積された時間が感じられるモノや光景
 自然の造形物
 今その時しかない光
 固定概念にとらわれず自由に感じてください

Photographer MOAI

岩手県盛岡市出身

1985年大阪芸術大学卒

同年広告企画制作会社にカメラマンとして入社

あらゆる業種業態のクライアントの撮影に携わる

1996年フリーランスとなりPhoto Office MOAI設立

大阪を拠点に広告写真を中心に活動中

建築人

2026.08 No.746

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin"

表紙の建築 「大屋根リング」2025年

第69回 大阪建築コンクール 大阪府知事賞部門 特別賞 受賞作品
設計：藤本社介+大林組+清水建設+竹中工務店+東畑建築事務所+梓設計
施工：(北東工区) 大林組・大鉄工業・TSUCHIYA 共同企業体
(南東工区) 清水・東急・村本・青木あすなる共同企業体
(西工区) 竹中工務店・南海辰村建設・竹中土木共同企業体
撮影：Iwan Baan、鳥村鋼一、伊藤彰 (アイフォト)

多様な世界を繋ぐEXPO2025大阪・関西万博の会場全体計画の理念「多様でありながら、ひとつ」を体現したシンボルとなる建築物である。機能と体験、伝統と革新、原初と未来、大屋根リングをはじめとした、万博の会場全体計画では、さまざまな機能や意味を掛け合わせて統合し、世界そして未来に向けて力強いメッセージを発信すること、そして来場した人びとの記憶に残り続ける体験を目指した。

2 MOAIの独言

4 Gallery 建築作品紹介

「MFL北大阪ロジスティクスセンター」

設計：石橋清志建築設計事務所

施工：村本建設

「トヨタL&F近畿株式会社 寝屋川支店・茨木支店」

設計：IZO

施工：奥田工務店

7 大阪の表象 第1回

『細雪』に描かれた大阪 / 中嶋節子

8 News of Note

東海道五拾七継を巡る 第3回枚方宿まち歩き

中小企業診断士と建築士 コラボ企画報告

10 研修スケジュール

11 動静レポート

12 Information

14 記憶の建築

「資生堂アートハウス」1978年

デビュー作に息づく静謐な空間の純度 / 松隈 洋

建築人 No.746 2026年8月号

監修 公益社団法人大阪府建築士会 建築情報委員会

編集 建築情報委員会『建築人』編集部

部門長：松下典央

委員長：武藤優哉

編集人：昇 勇 石貫方子 岩岸克浩

荻窪伸彦 笠松哲司 河野 学

大松俊祐 中北 力 春岡須磨子

三谷勝章 村上栄司 山本恭史

事務局：辻本和人 母倉政美

ロゴ・フォーマットデザイン 芝野健太

印刷 中和印刷紙器株式会社

令和8年8月1日発行

発行人：会長／上田茂久

発行所：公益社団法人大阪府建築士会

〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5F

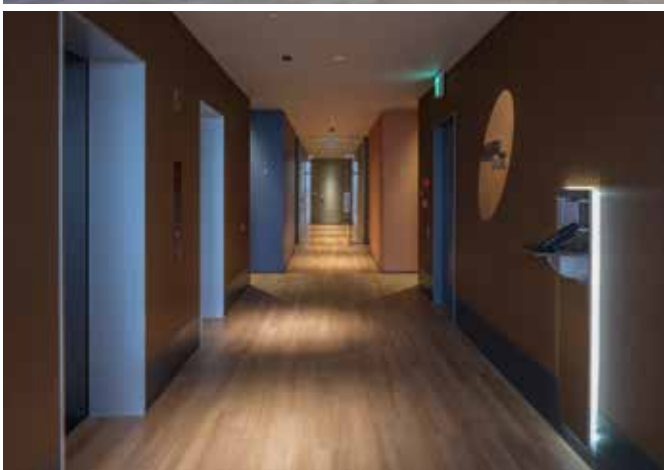
tel. 06-6947-1961

Gallery



MFL 北大阪ロジスティクスセンター

設計：石橋清志建築設計事務所
施工：村本建設



摂津鳥飼の淀川沿いに建つ本施設は、物流施設としての高い機能性と企業の顔となる意匠性の両立を目指した物流拠点である。双方向通行のランプウェイで効率的な車両動線を確認し、倉庫貸床面積を最大化した。ランプウェイとトラックバースは住宅地から離れた川沿いに配置し、周辺住環境に配慮している。倉庫部の高い階高を活かし、事務所を二層構成とすることでレンタル比を高めた。高さ制限で生じる建物形状を積極的にデザインに取り込み、配色にリズムを与え外観を一体的にまとめている。来訪者を迎えるエントランスを設け、本社機能にふさわしい執務空間を計画した。合理性と周辺環境との調和を図り、企業の成長を支える物流拠点を実現した。

所在地：大阪府摂津市
用途：自家用倉庫
竣工：2026.05
構造規模：鉄骨造
地上6階
敷地面積：8,047.91㎡
建築面積：5,598.02㎡
延床面積：16,104.54㎡
写真：松村芳治



「ひとつの大きな屋根を架ける」——寝屋川支店のあった場所に茨木支店を迎え入れ、2拠点をひとつに統合する計画である。事務所部門を2階建てとする一方、フォークリフトを扱う自動車整備工場は高い階高を必要とするため、工場部門が2階建ての事務所部門よりも高くなる違和感が生じる。その違和感を解消し、施設全体をひとつにまとめるため、一枚の大きな屋根で全体を包み込む構成とした。これまでライバル関係にあった両支店の融和を促すべく、事務室は天井高さ4mの開放的な空間とし、事務所と工場の間には上下階のコミュニケーションを誘発するバルコニーを設け、一体感を育む。大きな屋根の下で、人も機能もひとつにつながる、新しい拠点を目指した。
(松田和之)

所在地：大阪府寝屋川市
用途：事務所・自動車修理工場
竣工：2026.04
構造規模：S造
地上2階
敷地面積：3,492.98㎡
建築面積：1,776.76㎡
延床面積：2,801.57㎡
写真：北岸賢一

大阪の表象 第1回

『細雪』に描かれた大阪

中嶋節子・京都大学大学院人間・環境学研究所

谷崎潤一郎の『細雪』は、大阪船場で木綿問屋を営んだ旧家・蒔岡家の四姉妹の生活を通して、昭和10年代の大阪、そして阪神間の文化を描いた長編小説である。大阪の裕福な商家の娘で、谷崎の妻となった松子とその姉妹の身の上に起きたことを題材に描いたとされる。東京日本橋で生まれた谷崎は、1923（大正12）年の関東大震災をきっかけに、関西に移り住み、主に阪神間で住まいを転々としながら名作を生み出した。『細雪』の執筆は、武庫郡住吉村反高林（神戸市東灘区住吉東町）の「倚松庵」に暮らした時期の1942（昭和17）年にはじまっている。

東京では近代化と震災によって失われた美しき日本の生活文化が、関西に残されていることを谷崎は大切に思い、それをこよなく愛した。しかし、戦争へと向かう時代に、関西の文化もまた滅びゆく運命にあることを予感し、それらを書き残すために谷崎は『細雪』を執筆したという。こうした背景と意図で書かれた『細雪』は、戦前における関西、とりわけ大阪と阪神間の豊潤な生活文化、都市文化を知る優れたテキストといつてよい。

郊外への移転の軌跡

『細雪』には、四姉妹の生活圏として、実在する多くの場所が登場する。それぞれの場所は異なる性格と役割をもちつつ、互いに有機的に繋がり、そこに関西の都市的な広がりに関係性が描出される。

大阪の近代都市化に伴い人々は、明治後期以降、中心市街地の船場から周辺部へと住まいを移していった。その移動は、まず船場に近い上本町や天下茶屋、やがて私鉄の開通によって堺など大阪南部、そして阪神間への軌跡を描く。蒔岡家の人々の移動の軌跡もまた、それに重なる。

蒔岡家の店は、「土蔵造り」の「旧幕時代からの由緒を誇る船場の店舗」であったが、四姉妹の父の晩年に、別宅として使っていた上本町九丁目の家へと移る。『細雪』には、「父の晩年に、それまでは船場の店の奥に住んでいた彼女達が、住宅と店舗とを別にする時代の流

行を追って、その家に引き移るようになった」と記される。

上本町に建つこの家は、「純大阪式の、高い塀の門を潜ると襦子格子の表つきの一構えがあって、玄関の土間から裏口まで通り庭が突き抜けてい、わずかに中前栽の鈍い明りがさしている屋も薄暗い室内に、つやつやと拭き込んだ木の柱が底光りをしようとする、古風な作り」であった。こうした高塀造りのお屋敷は、現在も上本町などに見ることができる。

四姉妹のうち、長女・鶴子は上本町九丁目の本家を継ぎ、次女・幸子は芦屋に分家を構え、三女・雪子と四女・妙子は本家と分家を行き来する生活を送る。芦屋の分家は、阪急芦屋川駅からすぐの「もとは大部分山林や畑地だったのが、大正の末頃からぼつぼつ開けていった土地」にあり、ピアノが置かれた洋間付の住宅、庭には芝生と花壇のある典型的な近代の郊外住宅であった。

船場から上本町、そして芦屋へと広がっていく蒔岡家の生活圏は、当時の豊かな階層の人々が手に入れたものであった。

大阪の文化的領域

本家と分家のほか、蒔岡家は浜寺に別荘を構えている。また、姉妹の母親が病気になった時には、養生先として浜寺のほか須磨、箕面に移る。そのほか神戸での食事、京都への花見など、姉妹とその家族は関西各地を移動しつつ充実した生活を送る。こうした彼女たちの移動範囲は、近代における大阪を中心とする文化的領域を示すものといつてよい。

精神的故郷としての大阪

しかし、日常的に都市間を移動する新しい生活を楽しむ一方、姉妹にとって大阪は終生、精神的故郷であり続けた。

鶴子は、「大阪程よい土地はない」、「芝居は鴈治郎、料理は播半かつるや」と考える生粋の大阪人。幸子は「阪神間の代表的な奥さん」でありながら、進物の反物は高麗橋の三越で調え、六代目菊五郎の道成寺を観に千日前の歌舞伎座に足を運ぶ。妙子もまた、彼氏は船場の老舗貴金属店の御曹司、心齋橋筋の画

廊で個展を開き、島之内畳屋町に舞の稽古に通うなど、大阪と分ちがたく結びついている。上本町の家は「生まれ故郷の根拠」とされるように、彼女たちはあくまで大阪の人間であること、さらには船場の商家であったことを誇りに生きる。

大阪の都市文化と都市景観

『細雪』には、観劇や買い物といった都市文化を享受する場としても大阪は描かれる。家族が度々訪れる歌舞伎座は、1932年に完成したモダニズム建築。名前があげられる道頓堀の松竹座は、1923年に開場した関西初のRC造洋式劇場である。百貨店では、進物を買う三越のほか、浜寺の別荘番の息子の勤め先として難波の高島屋が登場する。三越大阪店は1930年に洋風建築に新築され、高島屋大阪南海店は南海ビルに1932年全館開業している。こうした都市景観の変化を「大阪も近頃は御堂筋などが拡張されて、中之嶋から船場方面に近代的建築が続々そそり立つようになり、朝日ビルの十階、アラスカの食堂あたりから俯瞰すると、流石に壮観である」と谷崎は描写する。

大正期後半から昭和初期にかけてモダン都市の様相を呈していく大阪を、『細雪』は同時代のまなざしで直写している。

『細雪』を都市論、都市文化論として読む楽しみは尽きない。

※「」内は、『細雪』新潮文庫版からの引用。



谷崎潤一郎
『細雪（上）』
（新潮文庫刊）

中嶋 節子（なかじま せつこ）
京都大学大学院人間・環境学研究所教授
京都大学工学部卒業。京都大学大学院工学研究科博士課程修了。大阪市立大学助教授等を経て現職。博士（工学）。一級建築士。専門は都市史・建築史。

東海道五拾七継を巡る 第3回枚方宿まち歩き ～枚方宿街道沿い・万年寺山を巡る～

地域サークル 北河内・みしま野地域 田中克之

2025年8月号「建築士」に掲載された大阪特集「淀川地域・東海道五拾七継」を歩くシリーズ第3回目を行いました。

第1回目は、大津から山科へ大阪に向かって歩き、第2回目は大阪から大津に向かって逆行するように八幡から淀に戻るルートでした。今回は、大阪に向かうルートで歩きました。



京阪電車 枚方市駅に集合してまず、枚方宿東見附に向かいスタートしました。東見附のすぐ横の天の川を北に渡ると一里塚跡があり大津から伏見・淀をぬけて枚方宿の始まりの場所となります。

東見附から歩き始めると旧街道沿いに町屋が立ち並びます。道に面し床几があり、格子や二階部分には虫小窓そしてうだつが見られます。現在残っている町家は少なく保存活動が遅れたせいか新しい建物が立ち並び街道筋の風情は残念ながら残っていません。

しばらく歩くと街道が左・右に、クランクになっておりそこに高野街道との分岐点である「宋座の辻」に出ます。宋座の辻を通り過ぎて普通は街道筋を進むのですが今回はここで少し寄り道をしました。

岡東公園を過ぎたところで左に曲がり進むと一乗寺に出ます。一乗寺には、枚方城主 本多内膳正政康のお墓があります。普段、墓参りに訪れる方々は目にするのですが少し奥まったところにあるためなかなか見ることができません。一乗寺を左に見てこんもりとした山が見えます。そこは万年寺山と言い、意賀美神社があります。枚方城には本多内膳正政康がおり豊臣秀吉は本多氏の娘乙御前を愛し、1585年(天正13年)枚方にお茶屋御殿を営み、乙御前を住ませたといわれています。意賀美(おがみ)神社境内に隣接するところにありました。また、万年寺山には古墳

もあり御殿跡と古墳跡が見られます。ここは淀川を足元に、遠く大阪平野と摂津・丹波・山城の山々を一望にできる景勝の地でした。残念ながら現在は建物がたちならび当時の面影はありません。豊臣秀吉がこの場所に御殿を建てたのは、枚方が京都・大阪の中間にあたり、万一の場合に備えて軍事上の要衝になるようにくさびを打ち込んだとも考えられます。

また、この万年寺山から東に枚方城がありました。現在、枚方小学校付近にありグランドの端にその跡が残っています。この辺りには、枚方で栄えた鑄造師(いもじ) 田中家の「たたら場」がありました。その横には天然記念物に指定されている楠木があります。田中家は現在、枚方市長尾の王仁(わに)公園近くに母屋とたたら場が移築され旧田中家鑄物民俗資料館となっております。

万年寺山を元にくだり、旧街道に戻るといよいよ枚方宿の中心部になります。

ここからは多くの町屋が残っています。中には、枚方宿で有名な「塩熊」(屋号)があります。塩干ものを取り扱っていました。現在も営業されています。そこからさらに進むと本陣跡にたどり着きます。紀州公も利用された場所です。現在は公園となり市民の憩いの場となっています。

本陣跡を後にして進むと街道がクランクした場所を通ります。このクランクは、枳形になっていて本陣に対する備えとなっています。そこからさらに進むと淀川に向かって右に入っ

たところが「問屋浜」となっており淀川を往来する三十石船をはじめ多くの輸送のための船の船着き場跡があります。その頃は今の底部はなく河原敷と高低差も少なく川を使った交通の中継点となっていました。問屋浜を過ぎさらに西に向かうと「鍵屋」に到着します。



ここは宿であり旅人の休憩所でもありました。現在はその建物と資料館になっています。資料館のほうには素晴らしい大広間があります。格天井を持つ素晴らしい大広間で淀川や高槻方面の眺望が望めます。ここには珍しい場所があり

ます。先にも述べた堤防がなく建物の一階部分に舟入が見られます。

鍵屋は街道を行きかう旅人だけでなく

川を利用する人々も利用していました。三十石船など大型の船の乗客に対して舟入から出て小舟で近づき「餅くらわんか・酒くらわんか」と掛け声をかけ食べ物や酒を提供(販売)しておりました。

鍵屋を後にして少し西に向かうと西見附となり枚方宿の大阪側の終わりとなります。ここからは寝屋川を通り守口宿に至ります。この間ほとんど街道としては川原をあるいたといわれています。

枚方宿の距離としては、京阪電車枚方市駅から枚方公園駅の間となり宿場町としてはそれほど大きなものではないと思いますが見どころの多いところだと考えます。

機会があれば歩いてみてはいかがでしょうか。



中小企業診断士と建築士 コラボ企画報告

青年女性委員会 曾我部千鶴美

「中小企業支援法」第11条に基づき、経済産業大臣が登録した中小企業の経営課題に対応するための診断・助言を行うプロフェッショナルと「建築士法」に定められた資格をもって、建物の設計・工事監理を行う建築のプロフェッショナルとのコラボ企画についてご報告いたします。

第1弾は、2026年1月20日(火)

「知らなきゃ損!? 建築士のための補助金活用と提案力向上基礎知識セミナー」と題して、中小企業診断士浅山貴宏氏に講演していただきました。参加した建築士からは、「中小企業診断士」という資格は知っていましたが、これまで接点がなく、具体的な業務内容までは理解していませんでした。今回のセミナーで診断士の方々とお話しする中で、会社の将来や経営について考えるきっかけとなり、視野が広がったように感じます。という感想をいただき、アンケート結果からも多くの参加者からとても良かったとの回答をいただきました。

第2弾は、2026年6月27日(土)

仮想の老舗旅館再生PJのワークショップを実施しました。まず初めに、参加者30人7グループに分かれ、日ごろのAI活用状況について意見交換を行いました。講師の中小企業診断士青島卓哉氏よりチャットGPTやGemini、Claudeなどのそれぞれの特徴について学んだあとで、「AIでできることは何か?」について断片的な情報やアイデアを効率的に整理する手法であるKJ法を用いてグループワークを実施しました。その後、KJ法やAIを駆使して、本日のワークショップに取り組みました。今日のワークショップの目的は、中小企業診断士の「事業価値創造」と建築士の「空間価値創造」の双方の専門性を掛け合わせ、連携による価値創造プロセスを体感することです。仮想老舗旅館再生提案(コンセプト+骨子)をグループワーク60分で進めました。ここで、仮想老舗旅館についてご紹介します。立地は、都心部から2時間程度に位置し、1970年創業当時は、良質な効能を持つ温泉旅館として規模も拡大し繁栄を極めていました。しかし、徐々に客足が遠のき、現在の借入総額は1億5000万円となっています。

ただ、2代目は、「うちの旅館はこんなもんじゃない! 今後30年輝き続ける旅館を造りたい」という熱い想いをもっています。

ワークショップの課題は、機会(追い風)と脅威(向かい風)、経営課題、空間課題を考慮して、本館(木造)、新館(RC造)、温泉棟のどれか一つを選んで、建築(ハード)の再生計画と経営(ソフト)の事業計画が一体となった提案をすることです。

■新館の投資に集中し、収益力をUP!



■光と影が織りなすバリアフリースマート改修プロジェクト



■新館 具体的な数値とともに



■AI駆使、モダンな和室のご提案



■AI駆使、本館リノベーション企画



■本館→新館→温泉棟ローリング収益



■日本の美に泊まる 伝統を磨き未来をもてなす



短時間のワークショップでしたが、7グループごとに様々な角度から再生PJ案が提案されました。AIを駆使して、精度の高い提出資料まで作成するグループもあり、中小企業診断士と建築士のシナジーにより大きな学びが得られました。

まだまだ、コラボ企画は続きますので、次回も多くの方のご参加をお待ちしています。

研修スケジュール

今年度研修委員会が実施するセミナー・見学会の予定表です。
募集開始になりましたら、HP等でご案内させていただきますので、ぜひお申込みください。

※スケジュール変更・中止になる場合もあります

企画名もしくは研修テーマ		スケジュール (予定)							
		8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	大阪建築コンクール見学会 「マツオコーポレーション本社ビル」	○							
2	モンテッソーリ視点で「子育て」がうまくいく			○					
3	大成建設関西支店ZEBリニューアル見学会 (BELCA賞受賞)			○					
4	ナッジデザイン手法について (大成建設 本社ROCKai)			○					
5	音無しルーバー等の技術紹介				○				
6	京都八百一見学会				○				
7	宇宙建築の今				○				
8	サーキュラー建築の今				○				
9	クボタ堺研究所見学会				○				
10	木造設計者ないしは初心者木造設計講座				○				
11	甲子園改修の現場見学					○			
12	ZEH・ZEB関連研修					○			
13	近畿地方整備局 出前講座					○			
14	グラングリーン南街区分譲棟見学会						○		
15	アップサイクルの最新事例講座						○		
16	御国色素新社屋 見学会						○		
17	省エネ法改正講座						○		
18	空き家 関連セミナー							○	
19	建築人賞 見学会 「立命館先端クロスバースイノベーションcommons／ グラスルーツイノベーションセンター」							○	
20	建築人賞(住宅部門) 受賞者 作品紹介及び討論会								○
21	奈良・興福寺五重塔見学会								○

動静レポート

会長動静

- 7/2 日本建築材料協会 建築・建材展大阪表彰式
- 7/4 近畿建築士会協議会まちづくり部会地域リーダー会議
- 7/6 部分断熱・耐震改修WG
- 7/10 正副会長会議、運営会議
- 7/13 平沼孝啓様・藤本壮介様面談
- 7/15 日本建築士会連合会企画運営会議、同臨時理事会、本会理事会
- 7/24 在阪建築4団体会長・支部長意見交換会

7月度 理事会報告

日時 7月15日(水) 16:00～18:00
場所 本会東会議室及び WEB
出席 理事 41/46 名 監事 3/3 名

【審議・承認事項】

(1) 会計報告、入退会報告

(円)	6月計	累計
収入	4,518,925	49,595,906
支出	9,805,638	27,134,519
差引	-5,286,713	22,461,387

(人)	入会	退会等	6月
正会員	8	9	1,997
準会員	0	0	30
特別準会員	0	0	20
賛助会員(他)	1	2	168
計	9	11	2,215

上記の当期経常増減明細と入退会を承認しました。

(2) SNS 運用承認申請書案

6月度理事会で承認された SNS 運用マニュアルに基づき、SNS を利用する各委員会を対象とした SNS 運用承認申請書を承認しました。あわせて、各委員会紹介ページの更新依頼、ホームページ改善要望の募集、Google カレンダーの活用促進について報告がありました。また、IT 化・DX 推進の一環として入会申込手続のオンライン化を進めるため、詳細案を9月度理事会に上程予定である旨の説明がありました。

(3) 本年度会務分掌の変更

北條豊和理事の辞任に伴い、ヘリテージ委員長の後任として昇勇理事が就任することを承認しました。

【報告事項等】

(4) 事業執行報告

定款第 21 条第 4 項に基づき、会長、副会長、常任理事(部門長)、専務理事より各事業の執行状況の報告がありました。

(5) 2026 年度研修予定

関西で注目されている建築や最新技術を駆使した先進プロジェクトの見学会・講演会、建築コンクールや建築人賞受賞作品に関する見学会、地域サークルとの連携企画等について報告がありました。

(6) 他団体との連携

業務領域の拡大やクライアントに対するサービスの向上を目的として、ランドスケープコンサルタンツ協会や日本インテリアプランナー協会、都市計画コンサルタント協会等との連携を推進する方針について説明がありました。

(7) その他

今後の事業企画の参考として、神奈川県建築士会の「建築紛争とけんばいに関する講習会」や、愛知建築士会の「Instagram 活用講座」の紹介がありました。

理事会での賛助会員 PR

本会では理事会において賛助会員企業による企業・製品紹介の時間を設けております。7月はクマリフト株式会社により「エレベーターの改修工事とメンテナンス エレベーターのロボット連携」についてご紹介いただきました。



岡崎雅部門長が国土交通大臣表彰を受賞

本会部門長の岡崎雅氏が、7月10日付で建設事業関係功労者等国土交通大臣表彰を受賞されました。

氏は一級建築士資格取得後、41年の長きにわたり、意匠設計者として「周辺環境と調和する質の高い建築」を信条に掲げ、事業主の意向や社会性に配慮した設計業務に携わってこられました。

平成3年に本会へ入会以来、青年委員会、委員会勢委員会、運営委員会などにおいて委員として尽力されるとともに、平成5年に評議員、平成19年に理事に就任されました。

公職においては、令和元年より民間総合調停センターの和解斡旋人を務められた後、令和7年には大阪地方裁判所の民事調停委員に就任され、現在も専門知識を生かし幅広く活動されています。



平沼孝啓様、藤本壮介様との面談

7/13にNPO 法人アートアンドアーキテクトフェスタより建築家である平沼孝啓様と藤本壮介様が来会され、本会の岡本名誉会長、上田会長と面談されました。

今後の活躍が期待される35歳以下の建築家に作品発表の場を提供することを趣旨として、同法人が毎年開催されている「建築の展覧会 U35」について、本会は本年度も広報協力するとなりました。展覧会の詳細は本誌9月号に同封予定のチラシをご参照ください。



建築士会からのお知らせ

既存木造住宅の耐震診断・改修講習会
(一般診断法)
8/7、10/29、11/17、1/29、2/25
CPD各4単位

本講習会は、大阪府及び府内市町村の木造住宅耐震診断・改修の補助を受けることができる技術者の養成を目的としています。2026年1月にテキストの改訂があり、一般診断法の必要耐力および保有する耐力の計算方法が変更されました。過去に受講された方におかれましても本講習を再度受講され、最新の技術を業務に活用されますようご案内いたします。

日時 8/7(金)、10/29(木)、11/17(火)、1/29(金)、2/25(木)
10:00～15:50

会場 大阪府建築健保会館
定員 80名(定員に達し次第締切)
受講料 会員5,000円 一般9,000円
テキスト代 9,900円

「2025年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」

既存住宅状況調査技術者講習
新規講習10/28
更新講習9/15、11/12、2/19
CPD新規5単位、更新2単位

既存住宅状況調査は、登録機関の講習を修了した建築士のみに認められる業務です。ぜひ本講習で新たな業務の資格を取得してください。令和5年度に本講習を修了された方は本年度が有効期限となりますので、更新講習をご受講ください。

▼新規講習(DVD)

日時 10/28(水) 9:30～17:00
会場 大阪府建築士会 東会議室
定員 30名(定員に達し次第締切)
受講料 WEB申込21,450円
郵送申込22,000円

▼更新講習(DVD)

日時 9/15(火)、11/12(木)、2/19(金)
13:30～17:00

会場 大阪府建築士会 東会議室
定員 30名(定員に達し次第締切)
受講料 WEB申込17,000円
郵送申込17,600円

▼申込 日本建築士会連合会HPよりお申込みください。上記以外にオンライン講習も開催いたします。

令和8年度監理技術者講習
9/18、11/11、1/13、3/19 CPD6単位

本講習会は建設業法に基づく法定講習であり、建築に特化したテキストを使用し、実務に役立つ情報を提供いたします。

日時 9/18(金)、11/11(水)、1/13(水)、3/19(金)
各8:55～17:00

会場 大阪府建築士会 東会議室
定員 各回30名(定員に達し次第締切)
受講料 WEB申込み9,500円
郵送申込み10,000円

申込 日本建築士会連合会HPより

令和8年度 建築士定期講習
10/16、11/19、12/11、1/27、2/10、3/24

建築士法の規定により、建築士事務所に所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は令和5年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず年度内に受講してください。

▼日程・会場・定員

※10/16(金)	大阪府建築健保会館	70名
11/19(木)	大阪府建築健保会館	70名
※12/11(金)	大阪府建築健保会館	70名
1/27(水)	(一社)大阪府建築士事務所協会 会議室	20名
※2/10(水)	大阪府建築健保会館	70名
3/24(水)	大阪府建築健保会館	70名

上記すべてDVD講習です。

※の日程：大阪府建築士会が運営
※以外の日程：大阪府建築士事務所協会が運営
注)各回定員に達し次第、受付を終了します。

時間 9:15～17:00(各講習日共)

受講料 12,980円(消費税含。事前入金)
申込 建築技術教育普及センターHPより

第20回国際企画海外研修旅行
「インドネシア～美の回廊を巡る」報告会
8/24 CPD2単位予定

2026年2月19日から25日に実施しましたインドネシア海外研修の報告会をいたします。訪問場所として、ジャカルタからジョグジャカルタ、スラバヤとジャワ島を横断し、旧市街地の街並み、世界遺産ボロブドゥール遺跡の修繕・保護などを学びました。さらには、スラバヤ工科大学の先生方と交流や、バリ島の寺院建築の見学についても報告いたします。

お気軽にご参加いただければ幸いです。

日時 8/24(月)
18:30～20:00(受付18:00)

会場 大阪府建築士会 東会議室
参加費 会員1,000円 一般2,000円
定員 30名

マツオコーポレーション本社見学会
8/28 CPD3単位予定

ブロックを問い直す ー構造・仕上・環境装置としての地域素材ー

本計画はブロック製造業の本社ビルです。計画にあたっては、設計者とメーカーが共に、ブロック建築の可能性を改めて見つめ直すことからスタートしました。地域でつくられ、地域で使われるブロックは、環境にも優しい素材です。

本建物は、そんなブロックの新しい使い方や可能性を感じていただける場となっています。

日時 8/28(金)
14:20～17:10(集合受付14:00)

会場 マツオコーポレーション本社ビル
受講料 会員2,500円
後援団体3,500円
一般4,500円

定員 30名



Informationの詳細及び申込みは大阪府建築士会ホームページに掲載しています。
http://www.aba-osakafu.or.jp/ メール info@aba-osakafu.or.jp
TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103

LOCAL HALATION

with KIYOSHI SEY TAKEYAMA

地域で生まれる建築の小さな光

(HALATION)が、まちへ、人へ、にじむように広がっていく。

8/30

建築士の会いずみ野では、建築家・竹山聖先生をお招きし、ショートレクチャーと、地域で活動する建築士たちによるプレゼンテーションを開催します。後半は、軽食を楽しみながら、設計や地域活動、建築への向き合い方について語り合う交流の時間です。

建築をきっかけに、新たな対話やつながりが生まれる場になればと思っています。ぜひご参加ください。

日時 8/30 (日)

13:30 | 受付

14:00 | 竹山聖先生ショートレクチャー
「空を切りとる」

15:00 | 建築活動プレゼンテーション
& 交流会

会場 泉大津インフォメーションセンター／
環創研本部 (大阪府泉大津市東港町
10-2 納谷家住宅内)

定員 20名 (申し込み先着順)

参加費 500円

+ 軽食・ドリンク代2,500円

大阪ステーションシティ見学会

8/31 CPD2単位予定

開業15周年を迎えた「大阪ステーションシティ」。その歴史は明治7 (1874) 年の初代大阪駅開業まで遡り、2011年には第5代大阪駅として新たな歩みを始めました。

近年では2024年の「KITTE大阪」「イノゲート大阪」の開業に加え、2026年には「うめきたグリーンプレイス」がオープン。駅とまちが一体となり、感動と発見にあふれる新しい大阪駅へと進化し続けています。

今回は、毎日70万人もの乗降者が行き交う大阪駅の大屋根から、変わりゆく大阪ステーションシティの今をご案内します。

見学ルート上、かなり徒歩での上下移動が発生しますので、動きやすい服装で足腰の丈夫

な方の参加をお願いします。

日時 8/31 (月) 15:00~17:00

集合場所 大阪駅3階ノースゲートビルオ
フィス入口前集合 (14:45) 予定

参加費 2,000円

定員 20名

藤井寺 建築見学会

—「古代から現代まで、藤井寺に息づく歴史文化を体感する建築見学会&活動報告会」—
9/6 CPD3単位予定

今回は、近鉄南大阪線藤井寺駅を出発して、藤井寺の建築見学会を行います。藤井寺は、コンパクトな街ですが、古代の信仰と現代の創造が息づいています。寺社・街並み・学習施設を巡り、歴史文化と建築の魅力を体感する企画です。皆様のご参加をお待ちしております。

主な訪問先：葛井寺、辛国神社、アイセルシュ
ラホール (藤井寺市立生涯学習
センター) 等

日時 9/6 (日) 9:00~

集合 近鉄南大阪線 藤井寺駅改札前

解散 同上

定員 25名 (申し込み先着順)

参加費 会員・一般1,000円

大学生500円

もう一度学ぶ タイルの基本

9/9 CPD2単位予定

本企画は、建築士・設計者として知っておきたいタイルの基礎から、最新の弾性接着剤張り工法、さらには定期報告制度に関連する剥離防止対策まで、実務に直結する知識を習得していただくための講習会です。この機会に是非ご参加ください。

日時 9/9 (水) 集合 17:30

ショールーム見学 17:30~18:00

講習会 18:00~19:30

会場 INAXタイルコンサルティングルーム大阪

定員 20名 (申し込み先着順)

参加費 会員1,000円 一般2,000円

その他のお知らせ

基礎から学ぶ「木造住宅のための住宅性能表示セミナー」

10/15

このたび、建築基準法及び品確法の改正に基づく住宅性能表示の構造、劣化、省エネ、空気環境を反映した2026年版「木造住宅のための住宅性能表示」の発刊を受け、同書を教材として改訂点の正確な理解と実務への適用を目的としたセミナーを開催いたします。本セミナーは、制度をこれから学ぶ方、再確認したい方を対象に、基礎から学べる内容となっております。

日時 10/15 (木) 10:00~17:15

会場 大阪府建築健保会館5階

定員 50名 (申し込み先着順)

テキスト 「2026年版 木造住宅のための住宅性能表示」

詳細は公益財団法人日本住宅・木材技術センターHPよりご確認ください。

「建築人」Gallery掲載作品の募集

本誌「建築人」は毎月約3,000部を発行し、本会会員をはじめ官公庁、大学、図書館、出版社、報道機関等に頒布しています。Gallery掲載作品は「建築人賞」の候補となります。

●掲載記事 1頁カラー、写真4点程度

●掲載費用 100,000円

※1 初回割引80,000円 (設計者および施工者が過去10年間、Galleryに掲載されていない場合)

※2 若手初回割引50,000円 (40歳以下かつ建築設計事務所を主宰され※1を満たす方)

●詳細・申込 事務局担当：母倉

e-mail: info@aba-osakafu.or.jp

TEL: 06-6947-1961

デビュー作に息づく静謐な空間の純度

資生堂アートハウス 一九七八年

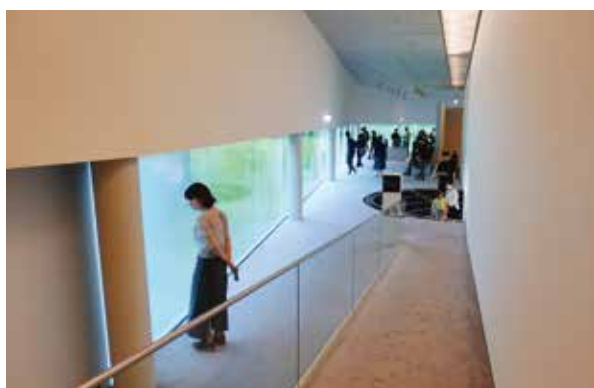
文・写真 松隈 洋「神奈川大学建築学部教授」

二〇二六年六月二六日、台風の接近により、大雨降りしきるあいにくの悪天候だったが、静岡県掛川市の資生堂アートハウスをはじめ訪ねることができた。開催中の美術家・小村雪岱（二八八七〜一九四〇年）の所蔵作品展「江戸を夢見る」を最後に閉館することが告知されており、谷口吉生（一九三七〜二〇二四年）の実質的なデビュー作として知られる美術館の現役最後の姿を見届けておきたいと思ったのだ。翌日が最終日であり、大

勢の来館者であふれていた。実際には、台風で最終日の閉館を余儀なくされたため、会期は七月四日まで延長された。それでも、新幹線に乗るたびに、一瞬、銀色に輝く磁器タイルの外観を車窓から見ていただけたので、今回、ようやくその空間にひたることのできた。もっと早く見ておけば良かった、そう悔やむほど感銘を受けた。拙文（谷口吉生さんを悼む 透明感湛えた空間の光明）『日本経済新聞』二〇二五年一月九日）に書きとめたよう



車寄せから美術展示室棟を見る



資料展示室のスロープからの眺め

に、筆者が彼の建築を意識的に見はじめたのは、一九八六年の前川國男の没後以降にすぎない。当時は、バブル経済へと突き進む混沌とした状況と、何でもありのポスト・モダニズムの潮流に翻弄されて、どこに現代建築のよりどころを見つければいいのか、途方に暮れていた。そんな中、東京都葛西臨海水族園（一九八九年）、信濃美術館（一九八九年）、猪熊弦一郎現代美術館（一九九一年）、豊田市美術館（一九九五年）、法隆寺宝物館（一九九九年）など、毎年のように竣工する谷口吉生の建築は、静謐な透明感を湛える清新な内外空間の構成によって、モダニズムの方法に対する信頼と希望のありかを指し示す力強い存在だった。一方、資生堂アートハウスは、それらの中庸さに比べ、金属的質感の彫刻的外観がそう感じさせるのか、前衛的な建築に思えて、素直に受けとめられずにいたのである。

けれども、現地を訪ねてみて、そんな浅薄な先入観は吹き飛び、谷口は、すでに最初から、きわめて純度の高い独自のモダニズム建築を試みていたことに気づかされた。正方形と円形の単純な形態の組合せと、周囲の環境を取り込んだ、流れるような内外の空間構成によるランドスケープの環境造形が完璧な姿で実現していた。それは、その後、続く方法の起点であると思えた。それにしても、どのようにしてこの建築は生み出されたのだろう。後年の回想録（『私の履歴書―谷口吉生』日本経済新聞社二〇一九年）の中で、谷口は次のように書きとめている。

「収蔵庫の設計ならば吉生に任せてみようか。父は若い私に機会を与え

ようと思ったのだろうか。（…）当初は収蔵庫だけの予定だった。それを資料館と美術館を併設したような施設とし、周辺も整備して工場の環境形成に貢献する方針を提案し、認められたのだ。」

ここに記されたように、資生堂アートハウスは、資生堂会館（一九六二年）を手がけるなど資生堂と信頼関係のあった父・谷口吉郎（一九〇四〜七九年）の推薦で、一九七四年に高宮眞介（一九三九年〜）と計画・設計工房を設立直後の三七歳の谷口が取り組んだ最初期の仕事であった。その際、時を同じくして、父の総合監修の下に手がけていたのが、最初で最後の父子の共同設計となった金沢市立図書館（一九七八年）である。

資生堂アートハウスは、文字どおり、父からバトンを手渡されて始まったプロジェクトだったのだ。そこには、父の求めた「清らかな意匠」の教えも託されていたに違いない。

また、この仕事に着手するまでの歩みを振り返ると、谷口の立ち位置が浮かび上がってくる。先の回想録によれば、一九六〇年春、慶応大学機械工学科を卒業し、就職先も内定していたが、ある日、父の仕組んだ清家清から唐突に言われた「アメリカはいよいよ、君も建築をやったらどうだい」の一言で、ハーバード大学大学院の留学を決意する。その大学院で、アーバン・デザイン・コースを開設して彼を迎えたのが、ル・コルビュジエのアトリエで前川國男と同僚だった学部長のホセ・ルイ・セルト（一九〇二〜八三年）であり、谷口は、セルトや国際建築家会議CIAM設立メンバーの歴史家のギードオンら、

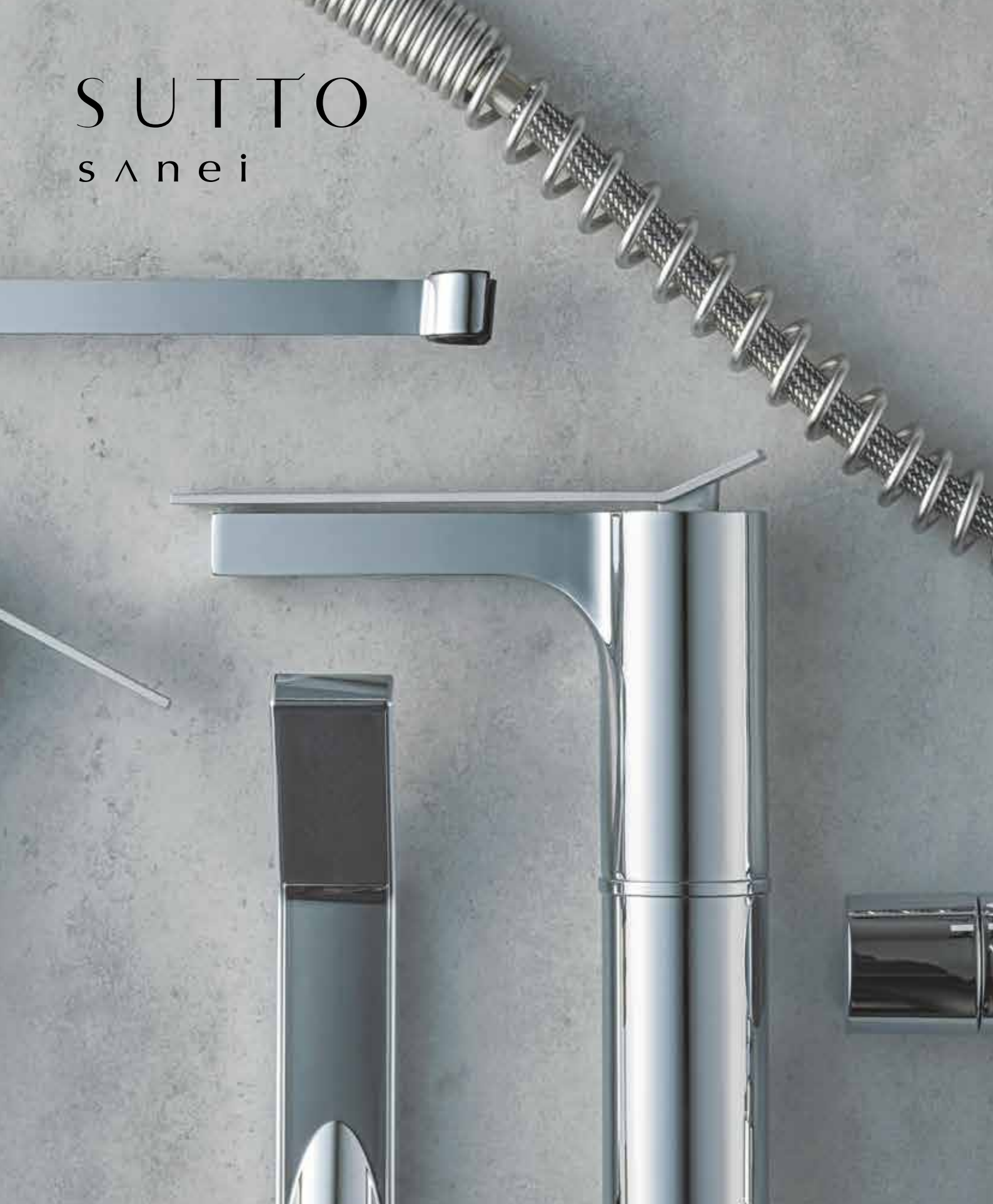
ヨーロッパで創始されたモダニズム建築運動の先駆者たちに学んだのだ。そして、帰国後に所属した丹下健三研究室で担当したのも、海外プロジェクトが多かったという。

こうして、谷口は、アメリカの良質なモダニズム建築の精神に触れて、丹下の下で、その実践を海外で試す貴重な修業時代を送る。しかも、その間、ヨーロッパ各国を訪れ、伝統とやさしさを持つ歴史的な都市に魅せられる経験も重ねていた。だからこそ、資生堂アートハウスに取り組む際、次のような判断ができたのだろう。

「建築界はモダニズムの反動で歴史性や装飾性を重視するポストモダンが台頭。一方では丹下健三先生の『国立代々木競技場』に代表される建築の構造的な表現も主流にある。私はどちらにも属さない新しい建築を目指した。」

谷口は、一九七〇年代のモダニズム批判の嵐が吹き荒れたポストモダンの潮流にも、構造表現を重視する丹下の作風にも影響を受けることはなかった。幾何学的な形態による構成的な方法と、人の歩みに沿って展開する空間のリズミカルな体験を重視する独自のモダニズム建築を誕生させたのだ。偶然にも、訪れたこの日は、父吉郎と東京大学建築学科の同級生であり、親父の深かった前川國男の没後四〇年の命日であった。また、小村雪岱は、ル・コルビュジエと同年生まれであり、その作風は谷口建築につながるようにも思えた。閉館後も、この建築の歴史的な意味と価値は変わらない。良いかたちであり続けてほしい。

SUTTO
sanei



水をつなぐ

SANEI 株式会社





2段屋根：広場を囲い、来客が上下で過ごす姿が会場の賑わいを印象的なものとしている。



夜景：ライティングによる光のリングは、各所のイベントを支え、記憶に残る場となる。